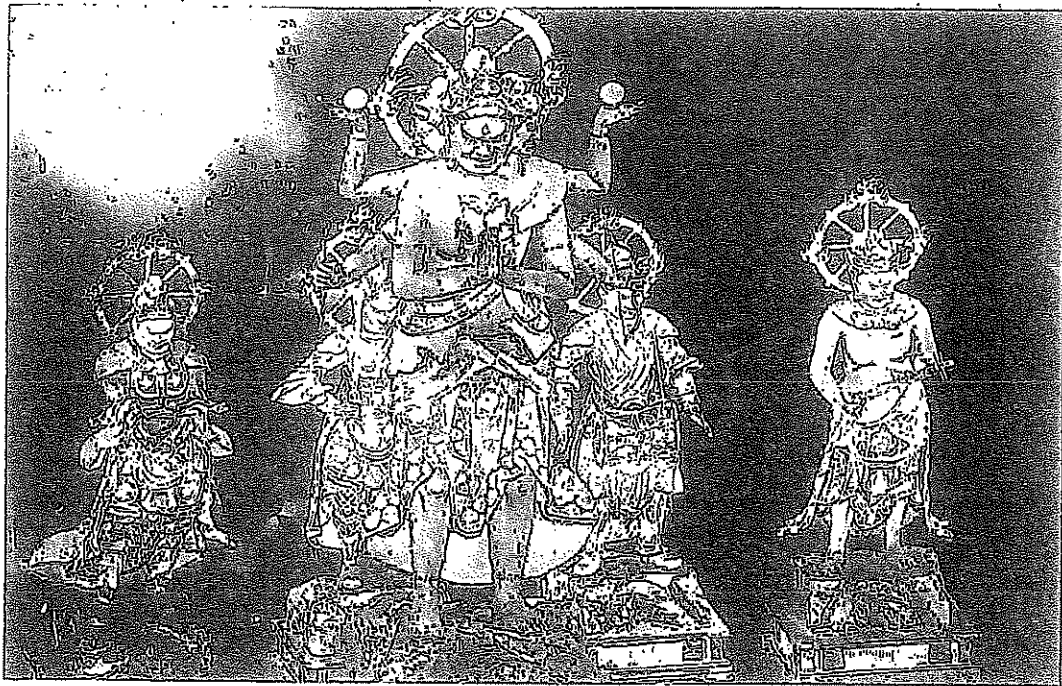


令和3年（2021年）10月21日（木）中日新聞朝刊

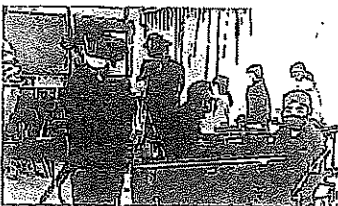
# 仁和寺観音堂内VR見学



羽島市正木小の六年生約百四十人が二十日、仮想現実（VR）の技術を使って京都市にある仁和寺観音堂内などを疑似的に見学した。同志社大の研究所が開発した歴史遺産の内部を遠くにいながらにして見学できるシステムで、正木小の児童が初めて体験。VRゴーグルからのぞく映像は本物とくくく、児童たちは手を伸ばしたりしながら三百六十度くくく見渡した。

（高野正憲）

㊦VRでのぞける仁和寺観音堂内の仏像＝同志社大文化遺産情報科学調査研究センター提供 ㊦VRゴーグルを着けて石舞台古墳の石室内を見学する児童＝羽島市正木小で



## 羽島の正木小児童 像にお辞儀 参拝気分

見学したのは、普段は非公開の仁和寺観音堂内と、七世紀前半の有力者、蘇我馬子の墓とされる奈良県明日香村の石舞台古墳。児童たちは仁和寺の豪華な観音像や風神雷神像にお辞儀をして参拝気分を味わった。石舞台古墳の石室内ではコソコソとした質感の石壁に触るようしたりして楽しんだ。

開発したのは、歴史遺産の活用を研究している同志社大文化遺産情報科学調査研究センター。現地でレーザーやカメラを使って寸法や色などを記録し、3Dデータを作って再現した。

センターは当初、来年二月に東京で開かれる高松塚古墳の壁面発見五十周年を記念したイベントでお披露目しようとして、同古墳版の準備を進めていた。ところが、センター研究員で市内に支店を構える歴史資料分析「パレオ・ラボ」代表の中村賢太郎さん（左）の次男が同校に通う縁で、十一月に修学旅行で訪れる京都と奈良への興味をかき立ててもらうおじと、初めて体験することになった。

尾関玲唯さん（右）は「触れてしまふかと思っていたけれど、最新の技術にびっくりした」。センター長の津村宏昭さんは「普段見られないところまで見られるのがこの技術の優れたところ。小学校などの教育目的で広げてほしい」と話している。